

平成30年度 日野市立三沢中学校経営重点計画				自己評価シート				平成31年3月公表			
★学校教育目標				○確かな学力 ○豊かな心 ○たくましい体				★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）				①自ら学び、考え、生き生きと活動し、表現できる生徒 ②豊かな心をもち、思いやりのある生徒 ③自らを鍛え、心身ともに健康な生活ができる生徒				①郷土を愛し、郷土に生きる生徒としての自覚を育み、人も自分も大切にしながら、人の役に立つことの喜びを知る「心豊かな生徒の育成」を目指し、道徳授業の充実、地域をステージにした特別活動の充実を図り、道徳的実践力や協働して課題解決をする力の育成を推進する。また、安心安全な学校づくりのため、災害教育といじめ防止を組織的に推進する。 ②学ぶ姿勢づくりを基本に、ICTを活用した授業の実施や日野スタンダードに基づくUD化された授業の構築を進め、分かりやすい授業を展開し思考力、判断力、表現力を高め、話し合い活動を取り入れ、学力の向上を目指す。			
【めざす児童・生徒像】				①生徒一人ひとりが大切にされ、よさが伸ばされ、いかされる学校 ②生徒同士、生徒と教職員が相互に信頼する温かい学校							
【めざす学校像】				①生徒一人ひとりが大切にされ、よさが伸ばされ、いかされる学校 ②生徒同士、生徒と教職員が相互に信頼する温かい学校							
【めざす教師像】				①生徒理解に基づいた教育活動を推進し、共感的理解と適切な指導ができる教師 ②研修意欲と実践力のある教師							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標		評価点			成果指標	
いのち	教育活動全体を通して、生徒が生命の尊さや生きる喜びについて考えを深めるとともに、自己有用感を味わわせる体験を通して実感を深めさせることで、生きていくことのありがたさに気付かせ、自分も他人も大切にしようとする意欲を高め、行動できるようにする。	○校内外でのボランティア活動を推進し、人の役に立つ喜びを実感させる。 ○「いのちの授業」等いのちにかかわる取り組みを行う。 ○特別活動の取り組みを充実させ、協働する喜びを味わせるとともに一人ひとりの達成感を高める。 ○いじめ防止を組織的に推進する。早期発見、早期指導、早期解決につとめる。 ○災害教育、生活安全指導の充実を図る。	・生徒会を中心に校内のみならず地域をステージとしたボランティア活動を活性化させ多くの生徒の参加を進める。 ・「いのち」にかかわる具体的な取り組みを開発する。 ・行事等で生徒の高い達成感を実現する。	3	4	計画、具体策に対してもよく取り組んだ教員80%以上	4	4	生徒のアンケートで、90%以上が行事で「達成感があった」と回答した	○小中交流会での生徒の姿は、真面目で達成感がうかがえる。 ○被災地プロジェクトについて、地域や小学校へ出向いて行ったことは良かった。生徒会・児童会だけでなくすそ野を広げてほしい。	○小・中・PTAとの連携やサミットに出た小学生が、各校へ戻って自校で広めていく活動にしていきたい。 ○行事等では引き続き生徒の達成感を高める取り組みを行う。
					3	計画、具体策に対してもよく取り組んだ教員70%以上		3	生徒のアンケートで、85%以上が行事で「達成感があった」と回答した		
					2	計画、具体策に対してもよく取り組んだ教員60%以上		2	生徒のアンケートで、80%以上が行事で「達成感があった」と回答した		
					1	計画、具体策に対してもよく取り組んだ教員50%以上		1	生徒のアンケートで、行事で「達成感があった」と回答したのは80%未満		
			・生活アンケートの実施を通して、自他を振り返り、いじめのない学校生活の確立を推進する。月に1回の生活アンケートとともに迅速に問題発見に努める。また、定期的にいじめ防止推進委員会を開催し組織的な対応を行う。 ・各種災害への訓練を行う。情報安全指導の充実を図る。	4	4	計画、具体策に対してもよく取り組んだ教員80%以上	4	4	学校は安心して過ごせるところであると感じている生徒80%以上	○「生活アンケート」を引き続き行い、教員の手をぬかない姿勢を見せていく必要がある。今後はDV等の発見が課題になるだろう。	○いじめ等を最小限におさえる努力を蓄積していくことが大切である。 ○家庭と学校がさらに連携する必要があるので、PTA等にも協力を願いながら対応していきたい。
					3	計画、具体策に対してもよく取り組んだ教員70%以上		3	学校は安心して過ごせるところであると感じている生徒70%以上		
					2	計画、具体策に対してもよく取り組んだ教員60%以上		2	学校は安心して過ごせるところであると感じている生徒60%以上		
					1	計画、具体策に対してもよく取り組んだ教員50%以上		1	学校は安心して過ごせるところであると感じている生徒50%以上		
学び	考える力、判断する力、伝える力の向上を図るとともに、社会で生きて働く知恵が身に付く授業を目指すとともに、生徒が安心・安全な学校生活を送れるようにする。一人ひとりを大切にし、個に応じた丁寧な指導を行う。	○教育活動全体で行う道徳教育並びに道徳の時間において○各教科等の授業において、実生活とつながるよう意図的・計画的に指導する。 ○特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、個に応じた教育を進めるとともに、特別支援教育の視点に立った教育を進める。 ○全教員が共通理解のもと、「挨拶」「時間を守る」「ルールを守る」の指導の充実を図り、落ち着いた状態を維持向上させる。	○ICTを活用した授業のユニバーサルデザイン化を進め、指導案を作成し、授業実践する。 ○道徳授業での「考える力・判断する力・伝える力」の向上を図り、道徳授業のユニバーサルデザイン化の充実を推進する。 ○道徳授業と教科の授業の中で話し合い活動を活発に行い、豊かな表現力と伝え合う力、及びコミュニケーションの力を鍛え、道徳的実践力を育む。心に響く道徳の指導案を全教員で作成し、授業で実践していく。	2	4	95%以上の教員が計画通り実施した	3	4	生徒のアンケートで、90%以上が「表現力や伝え合う力が身についた」と回答した	○ICTの活用状況が高いのは、その環境が整っているからだろう。 ○道徳の授業では、各教員の内面が表われるため、教員の心の充実やせまり方が重要である。	○ICTの活用は、子どもへの活用が今後の課題となるので話し合い活動の充実については、教員の指導法の工夫・改善がいっそう求められる。「発言スキル」として「発信力」+「聞く力」を身に付けさせたい。
					3	90%以上の教員が計画通り実施した		3	生徒のアンケートで、85%以上が「表現力や伝え合う力が身についた」と回答した		
					2	85%以上の教員が計画通り実施した		2	生徒のアンケートで、80%以上が「表現力や伝え合う力が身についた」と回答した		
					1	計画通り実践した教員は85%に満たなかった		1	生徒のアンケートで、「表現力や伝え合う力が身についた」と回答したのは80%未満		
		・「生活指導マニュアル」「日常生活での共通の取り組み」の指導を進める。 ・校内委員会を定期的に開き、生徒の実態を共通理解し、共通実践を図る。特別支援コーディネーターとSCの連携により、家庭・地域との相談・支援体制を整える。「特別支援教育のスタンダード」の視点に基づいた教育を全教室にて進めていくと共に、ユニバーサルデザイン化した授業を推進する。 ・特別支援教室、リソースルームの充実を図る。	・地域の歴史・文化を学ぶために、近隣の名勝・旧跡等に積極的に触れ、郷土教育を進める。 ・地域の事業所を中心として職場体験を実施することにより、地域についての理解を深め、地域に働く人々と関わる。 ・生徒の主体的な思いを実現させるための支援を強化する。 ・地域と連携して災害時の安全指導を推進する。また学校Webサイトを通し、広く地域に学校の取り組みの様子を発信する。	3	4	校内委員会を毎週実施し全ての対象生徒の検討をした	3	4	教員のアンケートで、90%以上が「校内委員会に合った生徒の実態把握ができた」と回答した	○対象生徒は増えているようなので、校内委員会は継続して行ってほしい。	○対象生徒が増えている現状の中で、校内研修会等を通して教員自身の「UD化の視点」をすすどくしていく必要がある。
					3	校内委員会を毎週実施し毎回9割以上の対象生徒の検討をした		3	教員のアンケートで、85%以上が「校内委員会に合った生徒の実態把握ができた」と回答した		
					2	校内委員会を毎週実施し毎回8割以上の対象生徒の検討をした		2	教員のアンケートで、80%以上が「校内委員会に合った生徒の実態把握ができた」と回答した		
					1	校内委員会を毎週実施したが、検討した対象生徒は8割に満たなかった。		1	教員のアンケートで、「校内委員会に合った生徒の実態把握ができた」と回答した教員は70%未満		
地域	生徒が主体的に世代を超えた交流を深める活動を充実させ、地域をステージにした生徒の主体的で豊かな学びができるようにする。同時に、郷土愛を育む。また、それらの取り組みを積極的に発信し、地域への啓発につなげる。	○総合的な学習の時間等での地域学習や職場体験等を通して地域とのかかわり、地域に生きる大人とのかかわりを深めさせる。 ○地域の防災活動等へのボランティア活動や中学生としての考えを伝える場を開拓、確保する。 ○学校からの発信を積極的に行う。 ○生徒会と児童会の交流を行うなど小・中連携を深化させる。 ○小・中・高連携の取組を深め、異校種間の接続をスムーズにするための指導改善に役立てる	・小・中教員による合同授業参観・授業参加（TTや出前授業）・協議会及び児童・生徒の合同活動等の計画を立て、積極的に交流し相互が学び合う。 ・キャリア教育の一環として、高校教員による出前授業等を実施し自らの進路に関心を持たせる。	3	4	90%以上の教員が計画通り実施した	2	4	生徒のアンケートで、90%以上が「地域の文化・歴史を学んだ」と回答した	○ボランティア等の活動場所の情報等で学校と地域がうまくつながっていない場合もあるので、今後、地域の人間関係を活用していけると良い。 ○地域ボランティアへの関心が高まっており、保護者は楽しみにしているので、Webサイトの継続を望みます。	○地域ボランティアへの関心の高まりを受けて、地域の中でボランティアの場を増やし、参加することで、ボランティアのすそ野を広げていく。「ちよこっとボランティア大作戦」という取り組みを来年度検討している。
					3	85%以上の教員が計画通り実施した		3	生徒のアンケートで、85%以上が「地域の文化・歴史を学んだ」と回答した		
					2	80%以上の教員が計画通り実施した		2	生徒のアンケートで、80%以上が「地域の文化・歴史を学んだ」と回答した		
					1	計画通り実践した教員は70%に満たなかった		1	生徒のアンケートで、「地域の文化・歴史を学んだ」と回答した生徒は70%未満		
				3	4	連携に関する計画をすべて実践・共有し、校内研修に生かした。	2	4	教員のアンケートで、「連携が深まり相互に学び合うことができた」と回答した教員は70%以上	○クリーン作戦等の活動のめあてを明確化させていくといいのではないか。 ○中高の連携の機会が少ない現状がある。（今年度は出前授業やヒノダンスで連携できた。）	○小中協議会での研究授業、クリーン作戦、被災地に学ぶプロジェクトや生徒会サミット等の連携行事を継続していくとともに、地域・小学校への発信を広げ、更にその先に繋がる工夫をしていきたい。 ○各活動の目的を再度確認し、充実に資する。
					3	連携に関する計画をすべて実践し成果を共有した		3	教員のアンケートで、「連携が深まり相互に学び合うことができた」と回答した教員は60%以上		
					2	連携に関する計画をすべて実践した		2	教員のアンケートで、「連携が深まり相互に学び合うことができた」と回答した教員は50%以上		
					1	連携に関する計画を全て実践することができなかった		1	教員のアンケートで、「連携が深まり相互に学び合うことができた」と回答した教員は50%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。